



『ザ・ギバー』を読みました。 すごくいい本だったので、 自分たちの言葉で紹介します！

これは東京都の4人の小学校6年生(女子)が本書を紹介した文章です。彼女たちが読んだのは講談社の旧訳版『ザ・ギバー』(絶版)なのですが、本書の魅力をいきいきと伝えてくれるとても素晴らしい紹介文なので、ご本人たちと先生の許可を得て掲載させていただくことにしました。ぜひご一読ください！

♥ H・Mさん(12歳)

この本の舞台は、一見平和で素晴らしく見えるけど、全ての行動が法律で決まっている“コミュニティ”と呼ばれる世界。このコミュニティの世界に住む人々は、12歳になると、委員会というところから、1人1人職業が任命される。自分で職業を選ぶことなどできないのだ。

そして、主人公ジョーナスが12歳になり、“12歳の儀式”を迎える。ジョーナスの職業やいかに！！

もう一つ、“リリース”という言葉がある。ヘリコプターの操縦を間違え、ヘリを反対に動かしてしまい、あわてて戻って行ったパイロット。そのパイロットには“リリース”という運命が待っている。“リリース”とは何か？ それは読んでからのお楽しみ♪

この本のテーマ…それは「愛」や「平和」「幸せ」などなど…その他たくさんある。自分はコミュニティのような世界と今住んでいるこの世界、どっちがいいんだろう？

今の地球について、よく考えさせられる本です。是非、読んでみて下さい！！ 超オススメです！

♥ Y・Yさん(11歳)

この本は、「ジョーナス」という男の子の話。この本の世界には規則があり、係(つまり仕事)があった。ジョーナスには、12才に近づくにつれ、あることが心配になってきます。そしてジョーナスは……???

♥ O・Mさん(12歳)

この話は未来の世界の話です。動物がいなくて、食事や服などがすべて管理されていて、犯罪や戦争がない世界にいるジョーナスが、職業を任命する儀式で、「記憶を受けつぐ者」に選ばれます。そして、過去の記憶(今の世界)を「記憶を伝える者」のザ・ギバーから受けつぐこととなります。ジョーナスはだんだん記憶を受けつぐうちに、今、ジョーナスが住んでいる世界はおかしいと感じていきます。そして、ザ・ギバーとこの世界を変える計画をたてるのですが…

ぜひ、読んでみてください。

♥ T・Mさん(12歳)

この話は、はっきり言って最初はわけがわからないと思います。でも、たくさん疑問が出てきて、みんなで話し合ってみるとすごくおもしろいので、何人かで読むのがおすすめです。ぜひお友達と！

えーっと、主人公はジョーナス。彼の住む世界はなんだかとても変です。どこが変なのかは…、読んでからのお楽しみ～♪ ということで、でも本当に考えさせられる本です。

「本当の幸せとはなんなのか?」「私達はこんな風になってはいないだろうか?」など。答えはそれぞれ。そう、この人それぞれこそが、本当の幸せなのではないでしょうか。自分らしく生まれ、自分らしく育ち、自分らしく過ごし、自分らしく死ぬ。これこそが、本当の幸せ、本当の「生きる」ということなのではないでしょうか。と私は思いました。みなさんも、この本を読んでいろいろなことを考えてみてください。答えはみなそれぞれ違うはずですが、なぜならば、それが「生きる」ということだと思うからです。

…いかがでしたでしょうか。

彼女たちは「ブック・クラブ」(あるラインナップの中から自分たちで本を選び、グループで読み、内容についてじっくり話しあう、リーディングの新しい実践)でこの本を選び、読み、考えたことを書き、たくさんのお話をみんなで話しあいました。その実践をつづじて、この素晴らしい紹介文ができあがったわけです。

1月発売の新訳版『ギヴァー 記憶を注ぐ者』を読まずにはいられなくなりますね！！

◎ ロイス・ローリー／島津やよい訳『ギヴァー 記憶を注ぐ者』
(定価 1575円)は 2010年1月7日刊行予定です！